

中央教育審議会大学分科会（第 159 回）における意見の概要

「全国学生調査」の目的関係

○こうした取組を通じて、大学がどう教育を変えていくかということと一体になって大学の質保証が進んでいくと良い。論点 1 の目的④で、本調査を通じて学生一人一人が自分を振り返ることで、学修や大学生活をより充実したものにしていってほしいということは非常に大事。

大学を取り巻く、大学・学生・社会（企業）という三者が、みんな同じように目的を共有しなければ全体のシステムは良くなるので、これを通じて、学生自身が自分の大学のこと、大学生活というもの、自分がどのように成長するべきかということをしっかり考える基本になってほしい。

○日本の雇用形態について、メンバーシップ型からジョブ型への変化が加速してきており、新入社員の時点から「あなたは何ができますか」ということを企業が求め始めている。受験勉強をして、就職までのつなぎの 4 年間のような位置付けから、大学は全く変わってきているし、産業界も変わってきているという意識を学生は持たなければならない。OJT でしっかり教えてもらえるはずだったではなく、この調査を通じて、学生に即戦力として社会に出るのだという自覚を高めてもらいたい。

質問項目関係

○第 1 回試行実施の結果やその他の調査を見ても、学生はかなり多くの時間、授業に出席しているが、それに対して、予習、復習、課題など授業外での学習時間が著しく少ない。今年度はコロナの影響で課題が増えたといわれているが、本質的には授業外でしっかり学習しているとはやはり読み取れない結果となっている。

今回、問 1 の新規の項目で、「4. 予習、復習など自主学習について、授業やシラバスで指示があった」という項目が入ることは大変良いことであり、こういった質問と、7. の課題はたくさん出されるがコメントが付いて返却されているか、といった質問をクロスしたり総合的に分析したりしながら、授業時間外の学習が増えていけば良いが、増えていない場合はどこに問題があって何を改善していけばいいかということ、調査の結果から読み取れるような方向としてほしい。

○コロナ禍を通じて、新しい大学教育の在り方というものがある程度出てきているが、特に遠隔を活用した教育方法が、どういうところが良いのか、それに関して学生がどのように行動しているのか、ということが分かるような質問項目を入れてほしい。

例えば、所属大学では、理科系の基礎科目を遠隔でやると、一回授業を聞いて、それから早送り再生をして、繰り返し見ることにより理解が進むという効果があることが分かってきている。そうした良いところも実態的につかめるような質問項目を入れてほしい。

○質問項目自体は良いので、あとは個々の学生のみならず、大学の反省という意味では、自分たちの意図どおり学んでくれているのか、教えられているのかということがあるため、例えばAPとCP、CPとDP、これらが自然とリンクするように質問項目を設けて、結果を組み合わせると三つのポリシーに沿って学生が育っているかどうか分かるようになる、大学としてはよりありがたい。

調査結果の公表関係

○試行段階でも自分の大学について結果を公表できることになるのは非常に重要で、今後の調査結果の公表に向けて前進したと評価する。こうしたことにより、ほかの大学とも比べることができ、それが大学の中でより良い工夫をするために不可欠の条件だと思う。大学で何を学修するか、大学がどういう意味を持っているのかということが、きちんと社会に理解されていないように思う。大学は、ある程度自分の大学については調査をしているが、調査結果はほとんど外に出ていない場合が多く、また、大学全体として公開されなければ社会に認知もされにくい。それが大学の中で行っている努力が外で評価されないことにつながっており、それは大学にとっても不幸であり、社会にとっても不幸であり、大学が更に改革を進めていくためにも社会からの理解は重要だと思う。

○日本社会として偏差値で大学を見るという習慣から抜け切れていないと思うので、それを打破する上でも、こうした取組・情報公表を全面的に押し出してほしいし、いずれ近い将来、教学マネジメント特別委員会で議論したようなことが実現していくことを期待している。